

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」を教育目標とし、教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な指導により生徒が学ぶ喜びを経験し、社会に貢献できる力をもった生徒を育みます。学び直しや昼間働くなど様々な条件の中で、「過去は変えられないが未来は変えられる」と強い意志を持ち、夜に学ぶ必要のある生徒を応援します。「三国丘の定時制の生徒なら大丈夫」と学校内外から評価・信頼される学校をめざします。

1) 学業と仕事を両立し、休まずに毎日の授業を大切にする生徒を育てます。

2) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、他者を思いやり、ルールを守って主体的に行動ができる生徒を育てます。

3) 丁寧な個別指導、キャリア教育を通して、社会に貢献できる生徒を育てます。

2 中期的目標

- 1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）
- (1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。
- ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科（数学・英語）では習熟度別授業を実施し、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。
- イ ICT機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。
- ※学校教育自己診断の生徒の授業満足度（「授業はわかりやすい」の肯定率と「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率の平均値）を、R 7 年度まで 80%以上を維持する。（R 2 70%、R 3 72%、R 4 83%）。
- (2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供し、社会貢献を理解させる。
- ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及び進路説明会を実施する。
- イ キャリアパスポートを活用し、年次に応じたキャリア教育を実施することで、進路意識の段階的醸成を図る。
- (3) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。
- ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた丁寧な指導体制により、確実な進路実現を図る。
- イ 3年間または4年間を見通したキャリア教育を推進し、卒業後の進路決定に向けた意識を高める。
- ※R 7 年度まで学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（就職、大学・短大希望者総数に対する割合）95%以上（R 2 100%、R 3 96.0%、R 4 96.0%）を、若年無業者 5 %未満をそれぞれ維持する（R 2 0 %、R 3 3.0%、R 4 2.5%）。
- 2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）
- (1) 「社会で自信をもって主体的に生きる」ために、他者を尊重する姿勢を身につけさせる。また、地域交流を通じて自己有用感を高める。
- ア 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。
- ※地域清掃活動を年 4 回（夏季と冬季に各 2 回）、地元保育園等との交流を年 2 回（夏季と冬季に各 1 回）実施することを、令和 7 年度に向け継続する。
- (2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることを気づかせ、すべての命を大切にする教育を行う。
- ア 社会に生きる多様な人たちと出会う人権学習を行う。
- イ 生徒並びに教員の健康・環境衛生の意識・関心を高める。
- ※R 4 年度は学年単位での人権HRを 2 回実施した。R 7 年度に向け教職員人権研修を含め、より内容を充実して継続する。
- (3) スポーツ大会や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。
- ア 総合学習「ふるさと堺探検隊」の高い参加率を定着させ、事業主、保護者の理解を得て、R 7 年度まで 75%以上の維持をめざす。（R 2 75%、R 3 定時制創設 70 周年記念行事 71%、R 4 76.1%）この行事の実施により、仲間と協同して堺の歴史と文化を学ぶとともに郷土愛を育む。
- イ スポーツ大会、文化祭などの高い参加率を定着させ、R 7 年度に向け 75%以上をめざす。（R 2 82%、R 3 77%、R 4 74%）これらの行事を通して仲間との交流の大切さを学び、コミュニケーション力の向上を通じて、豊かな心を育む。
- (4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。
- ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。
- イ 学校の課題解決に向け、教職員の専門性を高めるため、外部機関との連携を図り、教職員向け課題研修を充実させる。
- ※R 4 年度は教職員研修を 8 回実施した。今後も外部機関との連携を図り、R 7 年度まで必要な研修を実施する。
- ※最後まであきらめさせない指導により年度末の進級・卒業率（進級・卒業生徒数／年度末在籍数）を R 7 年度に向けて 90%以上をめざす。（R 2 90.0%、R 3 86.2%、R 4 86.5%）
- 3 校務の効率化と働き方改革の推進
- (1) 学校行事を精選し、生徒に有意義でかつ教職員にとって過度の負担をかけない学校行事を精選して実施。
- (2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取り組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

[学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見]

学校教育自己診断の結果と分析 [R 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

府立三国丘高等学校 定時制の課程

	(4) 教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 三国丘(定)の存在を地域にアピール イ 支援を必要とする生徒の情報共有 ウ 外部機関との連携強化 エ 日本語支援の必要な生徒の困り感を解消 オ 相談機関との連携 カ 学校課題解決に向けて キ 相談しやすい環境づくり ク 進級・卒業率向上をめざして	(4) ア・多様な支援を必要とする生徒に三国丘(定)の存在を地域にアピールすべく広報を行う。 イ・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、SCやSSWを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。 ウ・帝塚山学院大学大学院と連携し、ハートケアサポーター機能を高める。 エ・日本語支援の必要な生徒の困り感を低減する。 オ・生徒、保護者からのSCやSSWへの相談体制や外部の相談機関等との連携を継続強化する。 カ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。 キ・担任、SC、SSW、教育相談委員会の連携システムを強化し、生徒が相談しやすい環境づくりを行なう。 ク・最後まであきらめさせない個々の生徒への指導・支援により、学校への定着を図り、進級・卒業を支援する。	(4) ア・堺市内を中心に30校以上の中学校訪問を行なうか、広報誌等を送付するなどして、本校の良さをアピールする。[訪問39校] イ・教育相談委員会を月1回以上開催。職員会議等で月1回情報共有を行う。[1回/月] ウ・公認心理師候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年40回来校し生徒支援にあたる。[161回] エ・日本語支援の教育活動をすすめ、当該生徒の取り出し授業を45回実施することにより、進級または卒業をめざす。[138回][卒業] オ・生徒、保護者からのSCとSSWへの相談についてそれぞれ年間回数20回以上をめざす。[SC 22回SSW 55回] カ・教職員向け研修を年6回開催する[8回]。 キ・生徒の自己診断「担任の先生以外にも気楽に相談できる先生がいる」の肯定率70%以上を維持する。[76.9%] ク・年度末の進級・卒業率(進級生徒数/年度末在籍数)90%以上を維持する。[86.5%]	
3 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 学校行事を精選。 (2) 働き方改革の実行と推進 (3) 報告・連絡・相談体制の徹底と教員間の相互信頼関係の構築	(1) 生徒にとって有意義な行事の実施。 (2) 教職員の心と健康を守るため、長時間勤務の是正を図る (3) 教員間が互いに信頼しあえる学校の風土づくりに努める。	(1) 生徒の自己診断「スポーツ大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率80%以上をめざす。[79.1%] (2) 会議資料のペーパーレス化を図り、1ヶ月あたりの時間外在校時間の平均値20時間以下を維持する。[9時間13分] (3) 学校教育自己診断の「組織として『報告・連絡・相談』が徹底されている」という項目については、80%以上をめざす。[75%]「意見を率直に言える雰囲気である」という項目については70%以上を維持する。[87.5%]	